

第3回 豊岡市生物多様性地域戦略 第3期短期戦略策定委員会 議事録

日 時：2022年12月9日（金）14：00～16：10

場 所：豊岡市稽古堂 3階 交流室3－1

出席委員：菊地直樹委員、出口智広委員、菅村定昌委員、田中陽介委員、永瀬倅大委員、
名城千鶴委員、西垣由佳子委員、森本莉永委員、高橋佳大委員、藤田楓加委員

事務局：豊岡市コウノトリ共生部 川端部長

農林水産課 長谷川係長

コウノトリ共生課 宮下課長、宮田参事、兵藤係長

受託事業者 復建調査設計㈱ 伊藤、杉山

開 会：委員長あいさつ

《以下 →：委員発言、⇒事務局発言》

◎報告

（１）今後のスケジュールについて

⇒事務局より説明

（意見及び質疑等）

→特になし。

（２）第2回策定委員会における各意見に対する反映状況について

⇒資料1に基づき事務局より説明

（意見及び質疑等）

【作戦2について】

《目標1-③》

→これまでの文章であれば生物多様性「MY 行動宣言」の周知という形であり、MY 行動宣言というものの周知を行うということで分かりやすかったかと思う。今の文章では生物多様性を意識した行動に移す、というのが具体的にどんなものなのか、ちょっとぼやけた表現になるかなと思う。今、MY 行動宣言の見直しが検討されている状況、今がそういう状況なので、それが検討されたら、それに合わせた表現の仕方になるという認識でいいか。

⇒生物多様性を進めていくためには、市民一人一人の行動変容というのが大事。従来から MY 行動宣言というのは提唱されていたが、なかなか普及してっていない現状。今どのようにしたら、そういった取組みが進んでいくのか検討されている。国の方から次のポスト MY 行動宣言というものが出てきたら、そういったものを中心に、さらには豊岡市独自のものが出せるのであればそういったものを活かしながら周知に努めていきたい。

《目標 2-①》

→全体的にいろいろ細かく修正してあるが、若干後ろ向きになっているような気もするところがある。そこをどう考えていくのが良いのか。

一つはビオトープがある。豊岡はコウノトリを野生に戻すという時、始めたころから最初にビオトープ、日本でも先駆けてビオトープを作ったりだとか、魚道を作ったりして、一気に増えていったが、そこからやや伸び悩んでいるという状況がある。そういう中で予算がないから位置づけできないというような形でいいのかどうか、若干検討が必要かと思う。

⇒ビオトープの関係は、前回ご意見いただいたことかと思う。ビオトープについてもっと増やしていくということが大事なことは確かにそう思っている。その一方、後ろ向きとおっしゃられることは分かるが、なかなか今やっているビオトープについても、いくらかの経済的支援をさせていただきながら取り組んでいるということもある。しっかりと評価をしながら、また予算の限りもあるので、どのような形で増やしていけるのかということも考えていく必要があると感じている。なかなかビオトープを積極的に増やしますと書き込めてない。

→難しい状況だというのは理解している。だからこそちゃんと評価して、何が課題で、どうしたらそれが増やせるかみたいなのが欲しいと思う。そこについて、確かにこの2回で十分議論ができていなかったのも、今更そこを取り上げてもとというのはちょっとフェアでないとも思うが、ただやっぱりどうしても気になっている。生活環境の質を向上させることのひとつとしてビオトープがあって、なかなか現状は頭打ちである、それはいろんな課題が当然あるからだとは思っている。その課題を、仮にこの5年間で整理して、次の戦略にきちんと反映できるようなことが、最後のPDCA サイクルを回すというような話しともつながってくると思う。

→今の話し、同じく気になった。どうしてかというと、この前新聞にも出たが、豊岡市の中でコウノトリ共生部の名称が消えると報道がされていた。市民に対してはやはり市役所の体制の中でコウノトリがどうしても弱まるのではないかと伝わり、それはデメリットなのかなと思っている。そうなると地域戦略の中でもっと前向きな姿勢、豊岡市だけでは確に行うのが難しいと思うが、「県との連携をもっと強めます。」とか明記して、豊岡市の中ではコウノトリという名前が消えるかもしれないが、少なくとも市としてはこれからも引き続きコウノトリの保全とか続けていくんだということは明記した方がいいと思う。

⇒現在コウノトリ共生部、コウノトリ共生課というのがどうなるか、新聞等で掲載されている。ただ市民の方からも部は難しくてもせめて共生課というのは残すべきではないかというようなご意見をいただいているところでもある。

市民の方にその部署が何をしているのか分かりやすい名前にするのも大事かと思うが、せっかくここまで築いてきたコウノトリというブランドをしっかりと引き続き磨いて、維持していくことは豊岡市、これから高齢過疎化が進む中でも大事なことでと思っている。今いただいたご意見、県との連携の部分、ど

のようなことで連携が図れるのか。そういったもので後退しているというメッセージが伝わる事のないよう、少しこの戦略の中で落とし込めるのであれば検討してご相談させていただきたいと思う。

組織の話したが、コウノトリ共生課の名前については、いろんな市民団体の方からも要望をいただいたりする中で検討されている。確かに組織の部の名前はなくなるかもしれないが、考え方としてはこれまで取り組んできた市や市民の方の努力の結晶をないがしろにしたり、止めてしまうという考え方はなく、現時点では、多分引き継がれていくだろうと思う。ただし、市民やこれまでのコウノトリファンの方たちの中には、これから後退していくのではないかと不安や不満を抱えておられるということは実際に耳にします。そういうことが伝わってしまうのは、今後生物多様性を進めていくことに関しても決して望ましいことではないので、しっかり市が関わる人たちが伝えていかなければいけないし、義務があると思う。今回改定をするにあたって機を捉えてそういうことを市民や関係者の方にしっかり伝わる内容にしたい。また、まじめに達成できない目標を書きにくいという行政の悪いところではあるが、目標ということでもあるので、そこを目指していくんだという姿勢も見せる必要はあるのかなと思う。その辺は改めて可能な所をいろいろ工夫していきたいと思う。

皆さんからまたご意見をいただきたいと思う。

→コウノトリ野生復帰とか、もしくは保全に取り組んでおられる自治体の方々とよくお話をさせていただいている。コウノトリの野生復帰の維持、日本でいうとコウノトリって絶滅危惧種、天然記念物の保全をするということを見ていると思う。

世界的に見た場合はどうなのかと見た場合、実はこの野生復帰というのは人為的に改変されてしまった土地や農地で、そこにあえて手をかけて絶滅危惧種を復活させるということに非常に意味がある。2000 年後半ぐらいから農地の耕作放棄だとか各地で生物多様性の劣化ということがある。その中で人為的に改変されてしまった土地をいかにして生物多様性を復活させるのかということは非常に世界的に求められている。その象徴がトキとかコウノトリである。なので国内の目線と海外とは違うということの認識が必要。

コウノトリが増えたから、いっぱい見られるようになったからといって熱が冷めてしまうと、本当であれば世界的に注目されているのは、豊岡みたいに農地の生物多様性を復活させましょうとか湿地の生物多様性を復活させましょうということに取り組んでいることなのに、それでいいのかとなってしまう。下がってしまう。

それは非常にもったいないと思うので、取組みを維持もしくは拡大する、評価する方向にぜひ進めてもらって、豊岡の意義、目標の5につながってくると思うが、ここの評価につなげて欲しいと思う。

【作戦3について】

《目標2—①》

→少々無茶でも数値を上げておくべき。国のみどりの食料システム戦略なんて2050年に100万ヘクタール、これ25%。今0.5%なのに、できるわけがない。国がこんなこと言っているのだから、別にいいのではないか。豊岡も大きなこと言っても。

実際トップに近い所にいるのだから、それは維持すべきだし、給食で無農薬のお米を食べるようになることが決まっている。それはいすみ市が先にやっちゃっているが。その辺もやはり1位を取れるところは取っといた方がいいと思う。アピールできるところは尖ったものにしておくべきだと思う。

⇒先ほど有機の給食という話があったが、豊岡市としても、国の事業を使う等でお米に関してはすべて無農薬に持っていきたいという目標を掲げている。

給食費の予算上の話しとかもあるが、全食を賄えるだけの無農薬の耕作面積を増やしたいという目標は国の制度を使って実現したいと考えている。

→目標設定などについて、行政はどうしても積み上げで考えてしまう。現状がこうだからこれぐらいだろうみたいな発想で。そういう傾向があるのはよく分かるが、未来に向けて何か議論をするとき、積み上げ方式だけではどうしても変わらないことがたくさんある。

5年後こうしたいとか、20年後こうしたいと目標があってそれに対して今どうしていけばいいのかというような発想の転換も必要だと思う。今、給食での無農薬米の導入について前向きな話しもいただいた。国の設定目標のこともあるので達成できなかったら達成できなかったで、またこういう場でお互い批判したらいいと思う。

やはり現状これだからできないということだと、せっかく豊岡が作ってきたものが非常に縮小再生産されてしまう気がして、この組織改編という厳しい状況の中で、この取組みをより前向きなものとして多くの市民に捉えてもらうという意味からも、あるいは国際的にも考えて、やはりちょっと無理かもしれないなというくらいの目標を掲げてもいいのではないかなと思う。

全くのホラだとまずいが、これくらいのことを私たちはやっていこうというような目標。キーになるところでは、そういうようなことが必要かなと思う。皆さんの議論を聞いていて、改めて思った。

《目標2、4》

→農業もそう。環境創造型農業、その言い方が難しいのであれば、別の言い方でもいいが、それも豊岡が日本に先駆けてその方向性を出したというのは、紛れもない事実だと思う。

そういう中で、生物多様性の豊岡の戦略の中でなかなか積極的な方向性を出せないというのは、ちょっとこの見直し全体が、後ろ向きとまでは言わないが、停滞しているというようなメッセージとして伝わるのではないかなと思う。

従って、特に農業については、具体的な検討をして欲しいと事務局にお願いしたが、

なかなか現時点で整理するのは難しいという回答だった。ただこれは目標なので、5年間でそういうものを増やすという、努力をするという形の表現はありえないのか。その辺について事務局の見解と委員の方の中でご意見がある方があれば、お願いしたい。

⇒環境創造型農業について、国の方も含めて非常に大きな数値目標等挙げています。

こちらについては、作戦3の目標2の①のあたりの数値目標の議論になってこようかと思う。

また、給食における有機野菜の導入の関係もあるかと思います。こちらについても、保護者の負担の増加や、まとまった地元産有機野菜の確保などの課題もある。

その一方で無農薬米を来月1月から試験的に導入するが、補助金を活用して、行政が支援することによって、家庭の負担もなく増やせるということもあるので、そういった方法も含め、今後有機農法による耕作面積を増やすことについて検討していく必要があるかと思う。そういった出口として考えていく必要はあるかと思っているが、十分書き込めていないというのは確かかなとは思っている。

回答になっていないかもしれないが、課題としてあるということを認識していることはご理解いただきたいと思う。

→環境創造型農業の拡大もそうだし、給食、確かに保護者負担という面もあって、単価が高いので、理想を掲げるのは簡単だが、現実的にそれは難しいというのはよく分かる。だからこそ、それを現実化するための洗い出しというか、例えば今回は反映できないにしても次の推進会議、戦略会議みたいなどころできちんと議論していった上で、5年後にはそれを実現できるような形で繋げていくということが、少なくとも必要ではないかと考えている。

今日の話は報告事項ですから、大きな変更は難しいのはよく分かるが、改めて気付いたので話をさせていただいた。

→豊岡市のオーガニックの関係で学校給食の件があったが、県としては豊岡市と協力体制を組みながら、栽培技術面で支援をさせていただいている。学校給食に向けて、いろいろ取り組む中で面積拡大や技術面の向上も必要になってくる。その面で県は支援をさせていただいているので、学校給食といった形で学校とも協力体制を組めればと思っている。

《目標5-①》

→自伐型林業という言葉が、一般的には難しいかなと思う。最初に目標のところに「持続可能な森づくり」と書いてあり、その方が分かりやすい。どういうふうに変えたらいいのか今は分からないが、そういう感じにした方が分かりやすいかなと思う。

⇒表現については、個別に相談させていただきたいと思う。また、農林水産課などからもアドバイスをもらい、整理させていただきたい。

【作戦5について】

《目標2-①》

→戦略推進委員会の設置が追加された。この戦略推進委員会とはどういうもので、どのような内容で考えているのか。

⇒予算の関係もあり、明確には言えないが、今関わっていただいている策定委員を母体とした、戦略の取組状況を評価していただくものと考えている。

イメージとしては、年2回程度開催し、春には、前年度の取組状況がどうだったか（数値目標、指標、取組状況など）の報告を通じ、進捗状況の評価をいただく。また、取組みがたくさんあり、どの取組みを優先的にどのように進めていくのかご意見をいただいたり、専門家の方による作業部会的なものを設け、方向性を整理することも必要かと考えている。また、2回目は秋口に開催し、中間報告と、来年度予算へ向けてのご意見をいただけたらと考えている。予算も必要であり、全てが順調に進むか分からないが、しっかりと意見交換をしながら、取組みを進められるような組織にしたい。

→推進委員の方からも、情報共有を図ることがあれば、そういった機会も利用し共有させていきたい。

◎議事

（１）各取組案の目標項目について

⇒資料１により（大まかな考え方について）事務局より説明

（意見及び質疑等）

→もともと数値目標を組み込んだ戦略ではないと思う。どちらかというとな定性的な内容になっていて、数値化して上がった下がったという形で評価できるような戦略になっていない。数値目標そのものを入れるということが難しい課題だとは思っている。しかし、最近だと税金を投入してやることに對しては、数値目標を掲げて、どれくらい達成できたか、できていないかということも非常に重要になってきている。市民に対する説明責任ということに関しても必要になってきているので、入れられるところは入れて、あまり馴染まないところは入れなくてもいいのではないのかというのが、今回の考え方だと思う。

→一番右にある数値目標というのを、例えば作戦１の目標１を見ていくと、一番最初に市民調査の実施回数と書いてある。他にも、調査結果、実施回数が目安と出ているがこういうのは実際見ることができるのか。

⇒こういった指標とする数値について去年１年間これだけありました、把握できましたというのを推進委員会等に報告し、活動の輪が広がっているとか、広がっていないなというところ。もっと広げるにはどうしたらいいのかというようなご意見もいただけたらと思っている。

→これまでの過去２回の進め方だと、確かにもともとカウントするということを意識せずに進められてきたと思うが、この後、３期目の短期戦略を定めた後に戦略推進委員会を設置するとある。この中では実際議論の中で、実施回数の報告というのは行われる予定なのか。

⇒ こういった項目を拾っていくのが良いのかということを議論いただきたいと思っている。ただ、今のところ例えば一番上の市民調査の実施回数を 100 回にしよう、という数字的な目標を立てることは今回少し見合わせたいと思っている。100 回がいいのか、500 回がいいのか。10 回じゃ駄目なのかということもある。また、実績数値として把握できるのは、やはり市が関係している方々の取組み実績が中心になるが、市民調査の実施回数の中で大事なのは様々な団体、主体が取組みをしていると、そういったことも大事かと思う。今まで取り組んでなかった方々にも、広がっているということも大事かなと思う。把握できた市民調査の実施回数を報告させていただくと共に、集約する段階で新しくこういった団体でも取り組まれた、こんなところにも取り組んだということも含めて、推進委員会には報告させていただきたい。その報告内容を受け、活動の輪が広がっているとか、少し規模が縮小しているとか、何でそういったところが取り組んでくれたのかなということも、分かるのであれば聞かせていただき、何かきっかけがあるのであれば、そのきっかけを他の団体に広めるようにということも考えていくような場にしていければと思う。具体的な数値目標には挙げませんが、取組みについての集計、そして報告は、推進委員会でさせていただければと思う。

→ これまでの 2 回の短期戦略の中では、評価できるパーツがなかったというのが、よくなかった点なのかなと思う。今回 3 期目で定める際にはきちんと評価できる項目について評価しましょうという姿勢を見せるべきかと思う。

→ 後で検討会があるのが非常に大事な事であると思う。自分のことで考えると、市民調査とか観察会とか実施する主体の一つだと思うが、そもそも市民調査って何なの、ってところの議論をしていない。本来であつたらきっちり、これはモニタリングであつて、自然の健康診断であるべきものが市民調査かと思う。

観察会の方は、もっと興味関心を持ってもらって、裾野を広げるって話したと思う。でも、実際今やられているのは、どちらとでも見れるし、ひょっとしたら誰もモニタリングなんてやってないのかもしれない。今後の委員会の話し合いの中で、こっちの団体はこんなことをしてもらおうよとか、もうちょっとモニタリングは無理だから広げるだけにしておこうとか、実質的な議論をするために、今回は資料を集めていただけるというぐらいのところまでとどめて、次の時にはきっちりと分かったこととして、定義として整理できているというのでいいかと思う。

→ 数字は定性的な部分もあるとは思いますが、分かるところは農業の部分も含めて数字を出すことによって現状がどうなっているのか分かりやすくなる。

(1) 各取組案の目標項目について

⇒ 資料 1 により（個別の取組みごとの評価指標について）事務局より説明
（意見及び質疑等）

→ 数値目標についてのご意見を。数値目標というより、カウントしていくという感じ。目標を設定するのが難しい内容となっており、その中で数値化するという事で数字

を出していただいている。

⇒数値目標の設定について色々と説明したが、何かの認知度とか把握できていない。例えば、「生きもの共生の日」を市民の方がどれだけ知っているのが良いのかということはあるが、環境基本計画も2026年までとなっている。この生物多様性地域戦略も2027年までとなっている。環境基本計画改定にあたって、認知度などを把握する必要があるアンケートなど意識調査を行うと思う。その際に、次の地域戦略に入れ込む目標などについても、ある程度把握していきたいと思う。できるかどうかは約束できないが、数値を把握できるようにしたいという意気込みについて伝えておきたい。

認知度が何%が良いかというのは難しいが、事務局でも検討を進め、目標について検討していきたい。

→重要な話だと思う。先ほども、モニタリング、生物多様性の健康診断という話があったが、生物多様性に関する市民の健康診断のような位置づけ。そういった取組みが非常に重要である。認知度がどれだけあるか、地産地消を意識している人、給食費がいくらくらいまで高くなっても有機の導入を望むとか、そういったことが議論されたらと思う。

現状ではなかなかデータがなく、要求不満な点はあると思うが、皆さんから意見をお願いしたい。

【作戦1について】

《目標1 ほか》

→学習会や勉強会の回数を参考数値として把握していくことは大事であるが、そこに参加してくれる市民の人数も大事。100回やっても、参加人数が100人では、内容を考える必要があるのではないかな。もっと、市民の方に関心を持ってもらえる工夫とか。外来種駆除についても、何回やって、何匹駆除できたとか、次の年はどうだったかとか、多面的に把握することで、減っているなあとか、やっているけど減らないなあということが把握できるのではないかなと思う。

⇒回数だけでなく、参加人数も、そして主催する主体がどれだけあるのかも大事。さらに市民の意識がどう変化したのかを把握することも大事であるが、そこは難しく次の課題かなと思う。外来種駆除についても、駆除数の増減だけでなく、実施回数や実施方法などクロスで数値を評価できるように心がけていきたい。この5年間、色々と試行しながら、次の戦略改定の時にもう少し、明確な参考数値を提示できるようにしていきたい。

【作戦2について】

《目標1-④》

→CSRの実施企業数についても、企業数だけでなく、人数や回数なども把握して欲しい。

⇒参考数値として、一つの項目しか挙げていないが、複数の視点でカウントできるのであれば、カウントして報告していきたい。

《目標 4-①》

→OECM であるが、豊岡で現状カウントできるところがどれくらいあるのか。まずは面積を求めておくことが必要ではないか。新規も、個所数というより、面積が大事ではないか。理想としては、30%を超えた部分をクレジットで売ればよいが。それぐらいの意気込みでやればよいと思う。

⇒OECMに取り組むことは大事なことだと思う。ただ、面積でもあるが、そういったことを意識して取り組んでくれる人が増え、近くのビオトープや、目の前の圃場をOECMにということも大事かと思う。面積に加えて、そういった面からも報告したい。

→既に指摘があったが、OECM の保全地域の拡大ということであるが、個所数もあって良いが面積、比率が必要ではないかと思う。豊岡市全体において何%くらい現在あるのか。

⇒OECM の面積をどれだけ伸ばすのか。現状数値の把握に努めたい。その結果、もし、豊岡市の3割が既に保護地域となっていたとしても、更なる拡大は目指していけばよいとは感じている。

《目標 6-④》

→エリア保全に関する項目で、希少種保全エリアの数があるが、市の条例か何かで保護されている所か。

⇒保護地域については、ノアの方舟の事業を行っており、その保全個所を計上している。後ろ向きかもしれないが、予算の都合等もあり、これ以上増やすことは難しいと感じている。

【作戦 3 について】

《目標 1-①》

→農業への有害鳥獣対策の関係で、捕獲頭数がある。多分一つ前の作戦 2-6 ⑤とかにも該当すると思うが、駆除できた鳥獣の個数だけでなく、農業被害についても、今後の対策を考える上でも分かればありがたい。

⇒市で把握している農業被害の把握方法については、農会長さんを通じてアンケートを実施している。エビデンスとなる定量的な数値となるかどうかは分からないが、鳥獣害の被害が増えた減ったということを捉えて対策に生かすなど参考指標としている。出し方については検討したい。

《目標 2-② 他》

→意識改革の話をしているところに、数値目標をあげているが、こういうのは①の方に持っていったらどうか。あるいはコウノトリ育む農法も無農薬、減農薬あると思うので、積み上げとそれぞれの耕作面積を、それぞれ数値目標を設定したり。コウノトリの舞認証商品と書かれているが、まずそのことがどういうものかということを知っている方は少ないということが課題としてあると思うので、認知度を上げると同時に選んで買ってくれる人を目標として掲げるなどいいのではないかなと思う。

⇒計上できる目標については計上していけたらと思う。ただ、今あったように、作戦

3の目標2の②ということで、戦略上の目標値ということで挙げているが、この計画をまとめた当時の目標値が2021年度に51%以上ということで、現在は、この目標値というのは定められていないということもあり、難しいかと思っている。

またコウノトリの舞認証商品について、単にコウノトリのシールが貼ってあるということだけでなく、指摘のとおりしっかりとその趣旨を理解していただいて、農家さんが頑張って減農薬、無農薬で作っているんだなと、少し高くても選ぼうという方が増えていくように努めていきたいと思っている。ただ、市民の方へのアンケートとか実施していないため実際どのくらいの方がそう思ったり、買ったりしているかは把握できていないので、スタートになる数値を把握した上で、どのような取組みを進めるのかを、次の5年後にはこういったところまで増やしていきたいというようなことも定められるような計画にしたい。

こちらの生物多様性地域戦略でするのは市民の方に行動変容を促すような取組みで、中心となるのは農業の方の計画かもしれないが、そういったものと連携を図りながらしていく必要があると思っている。その点については、この5年間でしっかりとベースになる数字、どのようなものを数値目標項目として考えていきたいか含めて検討していきたいと思っている。

⇒コウノトリ育む農法の無農薬の面積であったり、減農薬の面積であったりというのは、毎年把握しているのでもちろん参考数値としてお示しすることはできる。あと、コウノトリの舞の認証品目等についても、市で認証しているので、参考数値として委員会等で毎回お示しすることはできる。

《目標7-④》

→前回の策定委員会で、マッチングの支援とあり、今回の提案として、相談に応じられる体制となっている。数値目標がマッチング件数となっている。それはそれで大事かと思うが、相談に応じられる体制づくりとなるなら、相談に来られた件数や中身なども参考になると思う。

→農業スクールの卒業生数もはっきりわかると思う。

就労相談は、興味関心を持ってもっと多くの方が来られると思うし、カウントもできと思う。④で農業も含めマッチングというより、相談件数などの方が数値を拾えるのではないかな。その流れで、就農希望者数も分かるので把握に努めていただきたい。

市民調査の回数。幅広い視野を持つてはという意見も出ていたが、メディアに紹介された件数、新聞掲載数などをカウントしては。報道されることで、参加していない人にも周知される。イベント内容の紹介などをトピックスとしてされるということであり、そういう周知もあると思う。

⇒色々な視点。マッチングの件数。若い方やリタイアした方が来られるのか。いろいろな方がおられると思うので、そういったものも紹介していきたい。

今頂いた意見などを踏まえて報告させていただく。また、策定委員会の中で報告して指標についても見直しをしていきたい。

(2) パブリックコメントの実施について

⇒資料2、参考資料1に基づき事務局より説明

(意見及び質疑等)

→今、COP15 をしているので、それがまとまれば参考資料1に入れてはどうか。おそらく 30by30 というより、ネイチャーポジティブが前面に出てくると思う。その中に 30by30 が逆に入ってくるかと思うので、そういったことを入れて欲しい。

⇒COP15 で合意が得られたなら、市民の方にも知っていただく良い機会になるので、何らかの形で入れていきたい。

→内容に直接関係しないが、この資料がパブコメにかけられるということで、市民に見ていただける良い機会であり、言葉の解説なども入っている。同じような感じで、豊岡市の生物多様性の状況の一つとして、コウノトリが 300 羽を超えたとか、こういった種がほぼ絶滅して見られなくなっているとか、書き込むことができないか。

⇒資料2については、そのまま短期戦略にできればと思う。今いただいたご意見は、参考資料1の中で、追加できるものは追加してパブコメで提示できないか検討させていただきたい。

【作戦2について】

《目標1-③》

→生物多様性を意識した行動に移しますの枠内の中で、地元産有機農産物の購入などの呼びかけなどと記載があるが、どこから引用されているのか。

⇒行動に移す市民を増やしますとの関係だが、行動に移す一つとして地元産農作物の購入も分かりやすい行動の一つであり、分かりやすいかと記載している。どこから来たかということではない。

→有機農産物、地元産品を買ってもらいたいというのはあるが、作戦3で第一次産業としてまとめて書いてあり、そこに集約しても良いと感じる。

⇒今ご指摘いただいた視点も踏まえて、パブコメまでに整理して見ていただきたい。

【作戦3について】

《目標1-①》

→資料2の各目標で、点線内に説明がされているが、有害生物の被害で、資料1では、具体的な種名は削除されているのにここでは残っているが訂正されるということか？

⇒基盤を守る方については、資料1と合わせて個別の種については削除したい。

閉 会 : 出口副委員長より